

伝統の技を継いで未来へ

創立50周年記念誌



神奈川県板金工業組合創立50周年記念誌



神奈川県板金工業組合

創立50周年記念誌



神奈川県板金工業組合旗





伝統の技を継いで未来へ



撮影：村田 隆男

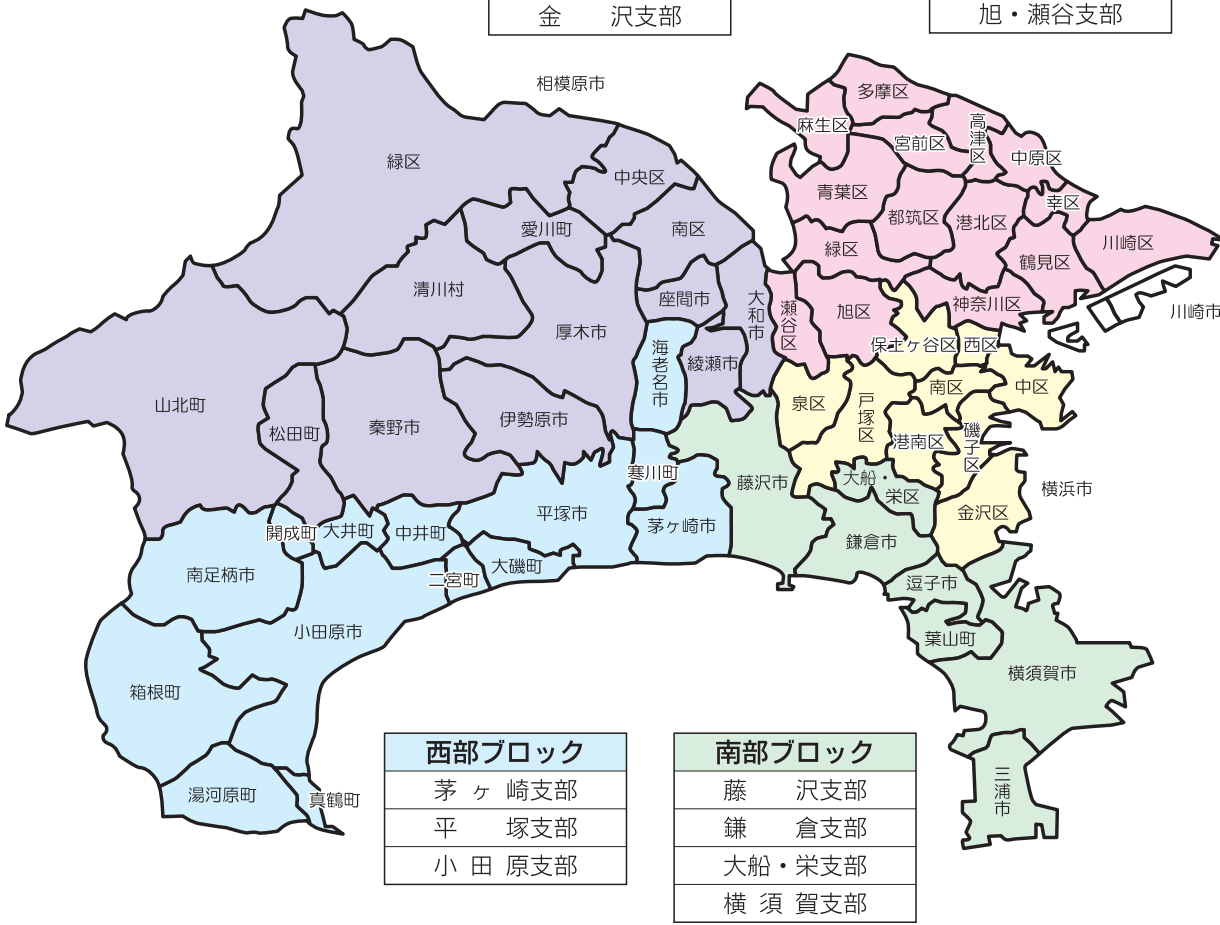
神奈川県板金工業組合支部所在地図

平成28年 9 月現在

北部ブロック	
相 模	原支部
厚	木支部
秦	野支部
大	和支部
伊 勢	原支部

中部ブロック	
中	支部
西	支部
南	支部
港	南支部
保土ヶ谷	支部
戸	塚支部
磯	子支部
金	沢支部

東部ブロック	
川	崎支部
鶴	見支部
神奈	川支部
港	北支部
緑	支部
旭・瀬谷支部	



◎神奈川県板金工業組合案内図◎



目

次

創立50周年を迎えて	神奈川県板金工業組合 理事長 村田 隆 男	3
創立50周年をお祝いして	神奈川県知事 黒 岩 祐 治	4
祝 辞	内閣官房長官 菅 義 偉	5
祝 辞	衆議院議員 小此木 八 郎	6
祝 辞	神奈川県板金工業組合 議員 顧問 団 団 長 堀 江 則 之	7
祝 辞	全 板 連 グ ル ー プ 代 表 石 本 惣 治	8
祝 辞	関東甲信越板金工業組合協議会 会 長 山 田 上	9
創立50周年をお祝いして	神奈川県中小企業団体中央会 会 長 森 洋	10
発刊を祝して	神奈川県職業能力開発協会 会 長 小 俣 一 夫	11

神奈川県板金工業組合歴代理事長	12
神奈川県板金工業組合役員	13
叙 勲 ・ 褒 章 ・ 表 彰 受 賞 者	17
昭和42年から平成18年までのあゆみ	23
組合活動(平成19年度～平成28年度)	29
各 支 部 の あ ゆ み	39
神奈川県板金工業組合員名簿	68
協 賛 広 告	78
編 集 後 記	137

創立50周年を迎えて



神奈川県板金工業組合

理事長 村 田 隆 男

神奈川県板金工業組合は、昭和42年に創立してから、歴代役員、組合員並びに関係行政機関、企業関係者の皆様から継続的にご支援、ご指導を賜りながら50周年を迎えることができ心から厚く御礼申し上げます。

当組合の変遷を顧みますと、昭和初期から30年代においては、神奈川県内の南北を問わず板金同業者で構成する多くの任意団体があり、その中の一つ、神奈川区内の組織で活動していた野村幸三郎氏をはじめ別府喜平次氏らの役員が零細業者の生活防衛を目的として中小企業団体の組織に関する法律に基づく、県下全域を網羅した唯一の工業組合を発足するため、各地区を駆け巡り同意者（719名）を募り、昭和42年11月、野村幸三郎氏が発起人代表として、神奈川県私学会館の講堂において482名出席のもと創立総会を開催、初代理事長に野村幸三郎氏、5名の副理事長を選任し発足しました。

発足直後の日本経済は高い成長率が持続し住宅産業においても新設住宅着工戸数の増加が続く中、板金業者も増加し組合員数も800名を超え、組合の事業運営及び組合員の経営状況も順調で華々しい一時期を経過しましたが、第1次・第2次オイルショック、さらにバブル経済の崩壊により減速経済へ転換、住宅産業にも大きな影響を及ぼし、我々の業界を取り巻く環境は一段と厳しい状況となり、経営の悪化などから組織を離れる傾向が長期間にわたり続いていることを懸念し、歴代理事長の実績を踏まえ、組合事業のさらなる充実をめざし、責任施工保証制度の導入による信頼度向上、板金職業訓練校設立と技能検定受験指導及び能力向上教育、レクリエーション大会の充実、安全大会の継続開催など魅力ある事業づくりに取り組んでまいりました。

今、我々の業界を展望するとき、工事施工流通システムの変化や建築資材の部品化など多様に変化している状況の中、一人ひとりが蓄積した「ものづくり」の技能技術を発揮する場が失われつつありますが、新たな技術へ対応していくことが必要と感じております。

幸い、当組合は、先人が築き上げた組合員の団結力と後継を担う青年部の活力により、あらゆる苦難を乗り越え、伝統の技と共に未来に継承・発展してくださることを願っております。

最後になりましたが、創立50周年記念誌の発行に際しましては、神奈川県知事、国会議員、関係諸機関の各位からご祝辞を賜り、また協賛広告にご協力くださいました関係各位に心から御礼申し上げます。

皆様方のご健勝とご繁栄を祈念申し上げます。今後とも変わらぬご支援、ご指導を申し上げ挨拶いたします。

創立50周年をお祝いして



神奈川県知事

黒 岩 祐 治

神奈川県板金工業組合の創立50周年を心からお祝い申し上げます。

貴組合は、昭和42年の創立以来、建築板金業界を取り巻く厳しい環境の中であって、経営改善や合理化を推進するとともに、認定職業訓練校の運営や技能コンクールへの参加などを通じて建築板金技術の向上、とりわけ若い技術者の育成に積極的に取り組まれ、業界の発展はもとより、県民の快適な住環境の提供に大きく貢献されてきました。

村田理事長をはじめ、歴代の役員の方々、そして組合員の皆様の長年にわたる御尽力に深く敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

近年、我が国では、若者のものづくり離れが進んでいると言われています。ものづくり産業は、長年にわたり神奈川の経済発展を支えてきた基幹産業であり、後継者の育成・確保は重要な課題です。

県といたしましても、ものづくり産業における技術・技能の継承、優れた産業人材の育成にさらに力を入れるため、この6月に「第10次神奈川県職業能力開発計画」を策定しました。この計画では、技能を継承する人材を継続的に確保するために、熟練技能者による技能講習の実施などを行っていくこととしています。

また、多くの若者に技術者の道を目指してもらうためには、早い段階から人材の育成に取り組むことが重要であり、子どもの頃からものづくりを体験し、その素晴らしさを知っていただくための取り組みを強化していきます。

貴組合は、例年夏休みに開催している「かながわ しごと・技能体験フェスタ」で、キャラクターのすじ彫りや銅板表札作りを体験する機会を提供され、多くの子どもたちにもものづくりの魅力や優れた技能の素晴らしさを発信していただいております。

ものづくり産業の持続的発展と技能の振興を推進する本県としては、大変心強く感じています。

人々の価値観やライフスタイルが多様化している今日、建築に関しても、個性やさらなる質の高さが求められるようになっていきます。

そうしたニーズに応える建築板金の高度な技術に対する関心は、ますます高くなっており、貴組合が今後も大きな役割を果たしていくものと思います。

皆様には、今後とも、優れた建築板金の技を受け継ぎ、快適で魅力ある住まいづくりを進めていただくとともに、県の取り組みにもお力添えを賜るよう、お願い申し上げます。

最後に、このたびの創立50周年を機に、神奈川県板金工業組合のさらなる御発展と、組合員の皆様のますますの御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝

辞



内閣官房長官

菅 義 偉

神奈川県板金工業組合の創立50周年を心よりお祝い申し上げます。

皆様の組合は、昭和42年の発足以来、それぞれの時代を通して、建築・ものづくりに携わる誇りと、その匠の技術の継承、そして業界の健全な発展にご尽力され、まさに今日までの日本の経済成長に大きくご貢献されてこられました。このたび50周年という大きな節目を迎えるにあたり、改めて、村田理事長はじめ歴代の役員の方々、組合員の皆様のご尽力に深く敬意を表します。また、日頃より、現場の声、地域の声をいただいておりますことに感謝申し上げます。

住まいをはじめ、働くためのオフィスビルや、遊びや憩いの場である体育館や商業施設など建築物は、全ての人々の暮らしそのものです。私も日本の住環境の向上のための住宅政策をライフワークとして取り組んでおりますが、少子高齢、国際化、人口減少社会に突入し、また価値観も多様化する現代日本において、皆様の業界は、これまで以上に安心安全へのこだわり、的確な方向性、そしてスピード感が求められています。単なるものづくりではなく、時流を読み、高い技術と新しい発想を取り入れ、「量から質」、「こだわり・付加価値」のものづくりに果敢に挑戦し続けなければならない時代です。

皆様は組合活動を通して、お互いの技術向上に切磋琢磨され、また、新しいアイデアを共有し、安心安全への責任を制度化するなど、まさに「こだわり・付加価値」をしっかりと具体化されておられます。それが結果につながり、多くの方から信頼を集めるのだと思います。

お陰さまで安倍政権は5年目に入りました。皆様がしっかりと仕事に打ち込めるよう、引き続き日本経済再生最優先に、誰もが夢と希望の持てる「一億総活躍社会」の実現に取り組んでまいります。そして、具体的に結果を出すことで、少子高齢化という日本の構造的課題に挑み、未来への責任を果たしていく、まさに未来に挑戦し続ける「未来チャレンジ内閣」です。皆様と同様に、私たち内閣もブレずに挑戦し続けてまいります。

ぜひ、この50周年を契機に、さらに一致結束され、業界の発展、魅力向上にご尽力されますことを期待します。神奈川県板金工業組合の益々のご発展とご列席皆様のご健勝を祈念いたしまして、お祝いのご挨拶といたします。

祝

辞



衆議院議員

小此木 八 郎

神奈川県板金工業組合の創立50周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げますとともに、本日の記念式典のご盛会をお慶び申し上げます。

貴組合におかれましては、昭和42年に設立されて以来、貴組合員の社会的地位の向上と経営の安定化に向けて、また組織力の強化と相互の交流を推し進め、神奈川の板金業界の発展のため力を注がれてきました。このような事業に携わられて社会へ多大なる貢献をされてきましたのも、村田理事長をはじめ、歴代役員の皆様、貴組合員の皆様の並々ならぬ御尽力によるものであり、あらためまして敬意を表します。

この半世紀に亘る50年を振り返ってみますと、高度経済成長後期、安定成長期そして経済変革期と激動の時代でありました。建設業界も技術開発が進み飛躍的な発展を遂げられてきました。このような時代の中、建築板金業の技術は一人前になるには10年くらいかかるとうかがっております。そのような厳しい世界の中で立派な職人になるため、貴組合員の皆様は日々研鑽を積み、技術の向上に努められ、その時代のニーズに合った技術を的確に対応され、任務を果たしてこられました熱意に感銘を受けております。

現在も変化の激しい時代ではありますが、美しく自然豊かな風土に恵まれた我が日本の気候も温暖化がもたらす巨大台風、集中豪雨、竜巻など異常気象が日本列島を襲い激しい気候となり深刻な被害を及んでいます。県民の皆様も防災意識が一段と高まり建築物の安全性と耐震化に対する関心もこれまでに大きく広がっております。建築に対するニーズが多様化する今日、住宅や建造物にとって最も重要な屋根や外壁などの技術の向上・進化が建造物の耐久性や安全性へと繋がり、県民の皆様の安全で安心な生活を守っていただいていると存じております。貴組合員の皆様にはこれまで以上に果たされる役割が大きくなっておりますが、地域社会に密着したご活動をされますことを期待しております。

また、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。競技が行われる会場の建造物と共に、世界中から神奈川県へ訪れてくる沢山の人々に住宅、建造物の高度な板金技術をアピールできるものと思っており、今から楽しみでもあります。

最後になりますが、貴組合員の皆様には50周年を契機に更に団結を強められ、また我が日本にとって大切な宝であり、世界に出ても誇れる素晴らしい建築板金の技術を次世代に引き継いで頂き、更に後継者の育成にも積極的に取り組んでいただけますようお願いしております。貴組合の今後益々のご発展と本日ご参集の皆様方のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝

辞



神奈川県板金工業組合
議員顧問団

団 長 堀 江 則 之

本日 ここに神奈川県板金工業組合設立50周年式典が、村田隆男理事長始め会員ならびに関係者各位のご出席のもと、盛大に開催されますことに対し、心からお祝いと御慶びを申し上げます。

同時に、この間伝統と歴史ある当組合にご尽力ご貢献を賜りました歴代理事長を始め関係者の皆様に、私からも敬意と感謝を申し上げます。

申し上げるまでもなく、貴組合は、東京オリンピック開催3年後の昭和42年に設立されたと伺っております。

当時は、オリンピックの経済効果が反映され、正に経済成長まっしぐらと言う時代でありました。工場や住宅が次々と建設され、景気も仕事も大盛況でした。

一方で貴組合では、この間板金技術の向上と、担い手の育成や、巧みの技の技能コンクール等に参加され、卓越技能賞に輝かれた方々も大勢輩出されました。また、働く職場の「安心・安全」な組合員の保健加入も積極的に取り組まれた功績も評価されるところであります。そして、毎年行われる家族レクリエーション大会も、青年部を中心に開催される事業は、組合員の絆を強くされているものと評価を致すところであります。

さて、私たち議員顧問団の設立は、当時、船木理事長と早川厚木支部長から議員顧問団のお話を頂き、自民党県議団の中から、貴組合よりご推薦を頂いた議員で構成致しております。顧問団の目的は、「板金業の振興と支援・協力」であります。

特に平成12年6月の第52回全国板金業神奈川大会は、今でも記録に残るところであります。貴組合が設立50周年と言う記念すべき年を迎え、今、私達が次なる時代に備えて、この成熟社会をどう乗り越えてゆくか、真剣に考えて行く必要があります。一つには、板金業の担い手の育成であります。そのためには、組合員一人ひとりの所得の向上にあります。今まで培ってきた事業を検証し、新たな改革が求められると思います。私たち顧問団は、微力ではありますが、引き続き貴組合を応援させて頂くとともに、貴組合の益々のご発展とご隆盛をお祈り申しあげ、お祝いのご挨拶と致します。

祝

辞



全板連グループ

代 表 石 本 惣 治

神奈川県板金工業組合が、記念すべき創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

まず、昨年の熊本地震の際、皆様のあたたかいお気持ちを義援金というかたちで組合の仲間と現地の人々に贈ることが出来ました。復旧・復興のために大いに活用されていることをお伝えするとともにあらためて感謝申し上げます。

さて、貴組合は昭和42年に482事業所参加のもとに設立総会を開催されて以来、実に50年という半世紀に及ぶ年月が経過するなかで、中小企業者の職場の改善発展を図るための必要な事業を推進することにより、公正な活動機会を確保し、その経営の安全と合理化を図られて来られました。

又、平成4年に貴組合独自の板金職業訓練校を開校し、技能・技術講習や神奈川県的气候・風土に合った「工事施工基準」や「標準施工図」などを作成・整備するなど、組合員の技術レベルの向上に努めて来られました。

更に平成8年から組合員の技術レベルを保証する「施工性能保証事業」（責任施工保証制度）を実施することにより、施主からの信頼を得るとともに、事業の拡大に大きな成果を上げられておられます。

個人企業レベルの事業者が多い建築板金業にとって、施主に信用と安心を与えることは非常に大切なことで、組合員であることの重要性とその意義がここにあると思います。

これは組合事業に取り組んで来られた歴代理事長をはじめ、役員、組合員の皆様の熱意と努力の賜と深く敬意を表する次第であります。

全板連グループでは、組合員の健康管理と老後の安定に寄与し、板金新聞の発行や責任施工保証制度の保証書の発行、さらに各種保険制度の推進及び指定商品の販売を行うとともに、登録建築板金基幹技能者の公的評価実現と他業種比べて遜色のない経済的・社会的地位の確保に向けた要望など、引き続き組合員の利益に繋がる事業を積極的に推進して行く所存ですので、今後とも貴組合の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、貴組合の皆様が創立50周年を機に、新たな時代に向けて益々ご発展、ご活躍されますことを祈念して、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

祝

辞



関東甲信越板金工業組合協議会

会 長 山 田 上

神奈川県板金工業組合が、この度記念すべき50周年を迎えられましたこと心からお祝い申し上げます。

貴組合は昭和42年に発足以来、半世紀に及ぶ長い年月にわたり組合運営に尽力され、ここに大きな節目を迎えられました。これは歴代の理事長や役員、そして組合会員の皆様の地道な努力がもたらしたものであり、深く敬意を表する次第です。

中でも、組合独自の板金職業訓練校の開校や責任施工保障制度の導入であります。それは技術レベルの基本的・基礎的な向上は責任施工に繋がり、これが施主・組合会員双方の信頼関係の強化に結びついていると思います。

神奈川県は日本の秀でた港湾と風光明媚な箱根など、「海」「山」の様々な気候や風土を有し、それに対応するが為に工事施工基準や工法等を先駆けて開発されて来られました。

これら貴組合の主導精神・先駆者精神は代々引き継がれ理事長のみならず、組合会員の皆様お一人お一人に浸透し、深い絆で結ばれておられます。

関東甲信越板金工業組合協議会も1都9県、10の板金工業組合が深い絆で連携し、首都圏を中心に地域を超え相互に協力し合って、今日まで様々な事業に取り組んでおりますが、貴組合は平素より協議会事業運営に対して先導的立場で対応して戴き感謝する次第です。

また、本年は同じ関東甲信越で第69回全国板金業者「茨城」大会が開催されます！ 貴組合と共に大会に向けて支援と多くの参加協力を募りたく思います。

当協会でも、引き続き地域に根差した事業を推進し、業界の地位向上と発展、人材育成と経営基盤の強化を図っていききたいと考えておりますので、今後とも貴組合の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、記念すべき50周年を機に、神奈川県板金工業組合の益々のご発展と組合員の皆様が一層結束してご活躍されますことを祈念して、私のお祝いの言葉と致します。

創立50周年をお祝いして



神奈川県中小企業団体中央会

会 長 森 洋

神奈川県板金工業組合が、創立50周年を迎えられたことを心からお喜び申し上げます。

貴組合は、昭和42年の発足以来、社会経済環境がめまぐるしく変化する中で、組合員の皆様の英知を結集し、住環境の改善向上のために、その役割を担い続け、建築板金業界の発展に多大な貢献をしてこられました。

貴組合の今日のご繁栄は、歴代の理事長をはじめとする役員の方々の的確な組合運営、組合員の事業協力、更には事務局職員の適切な業務執行など皆様が一丸となって団結され、長年にわたり努力されてこられた賜物であり、心から敬意を表する次第であります。

さて、中小企業を取り巻く環境は、依然として一進一退の足踏み状態の中で、景気回復を実感できないまま今日に至っており、建築板金業界においても、受注単価の据え置きや人材不足など、厳しい状況が続いております。

また、個人の価値観やライフスタイルが多様化する中で、建物に対して心地よい生活空間や個性的なデザインや美しさが求められております。

そのような中、貴組合では、顧客に大きな信頼感をもたらす責任施工保証制度を構築するとともに、労働安全意識の高揚・啓発を図るための「安全大会」や「足場講習会」を開催、また、建築板金の職業訓練校を設置し、若手技能者の技能向上、後継者の育成に力を注がれるなど、様々な取り組みを実施されてきました。

今後も組合運営50年で培ってこられた確固たる基盤と強い結束力をベースに、協同の精神の下、力を合わせて業界の更なる発展に寄与されますことをご期待申し上げます。

最後に組合員の皆様の一層のご活躍とご繁栄を心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

発 刊 を 祝 し て



神奈川県職業能力開発協会

会 長 小 俣 一 夫

この度、神奈川県板金工業組合が創立50周年を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。

昭和42年の設立以来、皆様方の組合は建築板金業界の中核的な団体として長年にわたり業界の発展に貢献してこられました。

また、優れた人材を育成するため、様々な講習の実施や若年技能者の育成など技能の向上に寄与してこられましたことに対し、深く敬意を表するしだいでございます。

更に、当協会が実施しております国家技能検定試験の協力団体として、実技試験の実施に多大なご協力をいただいております、これまでに延べ1,600名を超える建築板金技能士が誕生に寄与され、現在、多くの方がご活躍されていらっしゃいます。

これも、神奈川県板金工業組合の皆様方の長年にわたる多大なご尽力の賜物であると、深く感謝申し上げます。

さて、ご承知のとおり、2020年には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。日本では、56年ぶりに開催される大会に向け、道路などのインフラ整備や宿泊施設等の建設など、貴組合を含め建設業界では、限られた期間で完成させなくてはならない施設整備事業が数多く予定されています。

こうした、課題に対しましても皆様方におかれましては、これまでに培われた技能、技術を遺憾なく発揮されて、見事にその責任を果たされることと確信いたしております。

近年、建築板金業界を取り巻く環境も大きく変化しているようですが、長年にわたり業界を支えてこられた神奈川県板金工業組合の皆様には、今後も、日本の建築板金の魅力を広めていただくとともに、若い技能者の育成に向けたサポートや、会員の方々の社会的地位の向上、経営の安定化、組織力の強化などの意義深いお取組に対し大いにご期待申し上げているところでございます。

当協会におきましても微力ながら、技能者の社会的地位の向上を目指すため、技能五輪大会や技能グランプリなどの各種大会への参加促進のための支援や、熟練技能者である「ものづくりマイスター」による若年技能者のレベルアップをめざした技能指導等を行っております。

更には、若年層へものづくりの魅力を発信するための「かながわ しごと技能体験フェスタ」を毎年、開催しています。

今後も、さまざまな機会を通じて、ものづくりに対する啓発や人材育成への支援を行ってまいりますので、神奈川県板金工業組合の皆様からの引き続きのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この創立50周年を契機として、神奈川県板金工業組合のさらなる発展と、会員のみなさまのますますの御健勝、御活躍を心からお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

歴 代 理 事 長



初代理事長
(昭和42年11月～昭和57年5月)

野 村 幸三郎



第2代目理事長
(昭和57年5月～昭和63年5月)

柳 川 信 夫



第3代目理事長
(昭和63年5月～平成9年5月)

歌 川 菊治郎



第4代目理事長
(平成9年5月～平成13年5月)

舩 木 乗 行



第5代目理事長
(平成13年5月～平成25年5月)

櫻 井 俊 雄

神奈川県板金工業組合役員



第6代目理事長
村田 隆 男



副理事長
市 川 肇



副理事長
監 物 光



副理事長
船 木 家 國



副理事長
和 田 英 則



副理事長
齋 藤 真 人



理事会計
島 永 義 治



理事会計
萩 原 繁 夫



理事会計
土 田 和 治



理 事
海 藤 定 吉



理 事
市 川 満



理 事
山 内 昭 次



理 事
沼 田 郁 夫



理 事
高 橋 良



理 事
伊 藤 祐 吉



理 事
林 好 重



理 事
間 川 輝 男



理 事
佐久間 弘 之



理 事
萩 原 敏 男



理 事
船 木 弥 一



理 事
加 藤 慎 吾



理 事
二 木 哲 也



理 事
山 本 均



理 事
柳 川 辰 男



理 事
長 谷 川 丈 二



理 事
監 物 庄 二



理 事
佐 藤 広 章



理 事
猪 俣 寿 久



理 事
久 保 田 和 男



理 事
早 川 誠



監 事
志 村 里 勝



監 事
塩 田 力



監 事
萩 野 圭 吾



顧 問
櫻 井 俊 雄



相 談 役
早 川 良 夫



相 談 役
歌 川 明



事務局員
深 澤 光 雄



事務局員
西 澤 美とり